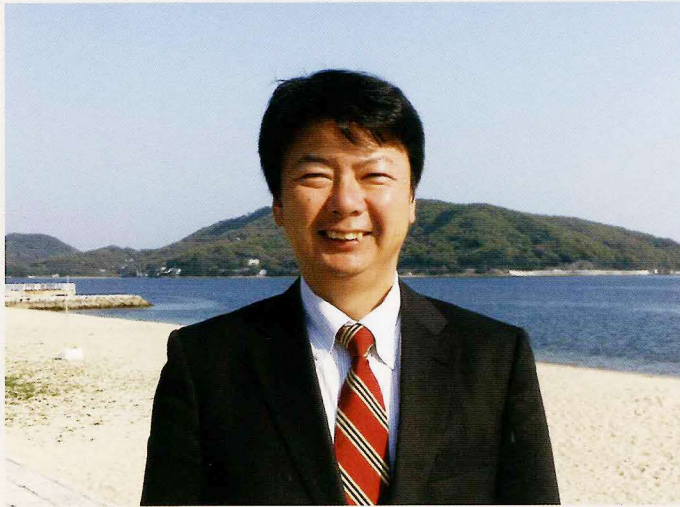


# アカデミックの現場から

## 見る香川県



# さぬき 学びの場

元小豆島観光協会事務局長

いしとこ わたる  
**石床 渉** 氏

(せとうち観光専門職短期大学  
准教授予定)

8月下旬以降、香川県では日本初となる観光分野の専門職短期大学が誕生予定となっている。

せとうち観光専門職短期大学(仮称)(高松市屋島西町二二六六一)穴吹忠嗣理事長)では、観光のプロフェッショナル達を教授陣として予定している。

その中の一人、元小豆島観光協会の事務局長の石床 渉氏は、小豆島の北海岸、土庄町屋形崎で生まれた。目の前に広がる瀬戸内海の先は赤穂。小豆島の塩作り、醤油作りのルーツが見える。美しい環境で育った石床氏は、初めて就いた仕事(公財)神戸YMC A野外活動センター主事、ホテル事業部支配人。その後、マレーシアのGRAND BLUE WAVE HOTEL営業部長、香港日本人倶楽部の飲食部マネージャーなどを歴任し、平成24年から(一社)小豆島観光協会事務局長に就任。観光庁認定の香川せとうちアート観光圏地域づくりマネージャー、小豆島観光戦略会議理事等多くの経験を持つ。

「香川県には比類ない観光、産業文化が蓄積されています。半面、人材不足が問題視されており、国内外、瀬戸内地域において二十一世紀の基幹産業である観光に、即戦力となる高度

専門職業人の育成が課題です。今、観光は、壊滅的な打撃を受けてはいますが、必ずこの状況は克服されると思います。アフターコロナでは観光形態が変化するかも知れませんが、人材育成は今すぐにも行うべき重要な事と考えます」と長年、観光を現場で見てきた石床氏。

同学校では実務教育として実習が充実される予定で、実習、実技が単位の3分の1を占めるという。県内の企業を中心に臨地実務実習も行われる予定だ。同時に充実した学術教育により、実務と理論のバランスがとれた「観光振興を担う高度専門職業人」の育成に注力していくと話す。

「私自身の、これまで海外のホテルや小豆島観光協会での仕事をしてきた経験を学生に伝えられたらと思います。仕事でするので楽しいことばかりではなく、日々厳しく辛いことの連続です。あとから振り返ると反省ばかり。先人の成功談はよく耳にしますが、逆に学生には失敗談を生の声で伝え、将来に活かして欲しいと考えています」。

瀬戸内海は国立公園として雲仙、霧島に並び初の認定を受けた80年以上の歴史ある観光地。島々の美しい姿と厳しさをまるごと伝授してくれそうだ。

# 欄 告 広